

博物館だより

No.44

平成21年12月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

特別展

岩垂邦彦展

明治日本の工学維新を担った男の軌跡

開催中!

当館では現在、特別展「岩垂邦彦展」を開催中です。

岩垂邦彦は世界的電機メーカー・日本電気株式会社（NEC）の創業者で、みやこ町豊津の出身です。彼は発明王エジソンに師事した数少ない日本人であり、事業に成功した晩年は故郷の後進育成に惜しみのない投資をしてくれた人物でもあります。そんな彼の軌跡を知る貴重な資料約100点を展示しています。

この機会にぜひご覧下さい。

- 開催期間 12月20日(日)まで
- 開催場所 博物館常設展示室
- 観覧料 常設展の観覧料でご覧いただけます。



▲岩垂邦彦 (明治26年[1893]撮影)

10・11月の活動日誌から



▲文化協会の皆さんによる力作が勢ぞろいしました

●博物館がギャラリーに変身！
10月17・18日の両日、博物館等を会場に文化月間記念展示会が行われました。博物館ホールは生花や絵画・短歌作品で一杯となり、ギャラリーに様変わりしました。

障子ヶ岳城跡の除草作業実施!

11月1日、勝山松田の障子ヶ岳城跡で除草作業が行われました。博物館は「屋根のない博物館」の資料として史跡管理も行っており、雨の中行われた地元の方々の除草作業をサポートしました。



▲山頂の郭(くるわ=陣地)跡を除草中の障子ヶ岳保存協力会の皆さん

歴史たんけん作文コンクール入賞者決定!

博物館友の会とみやこ町教育委員会が共催で実施した「夏休み小学生歴史たんけん作文コンクール」の入賞者が決定しました。今回で14回目となるこの作文コンクールには70点の作品が寄せられました。どの作品もよく書けていましたが、その中でも特に優れた7点が今回の入賞者として選ばれました。受賞者は次のとおりです(敬称略)。

●最優秀賞

豊津小学校6年 大嶋 茉穂

「江戸のくらしから学ぶものがない」

●優秀賞

行橋北小5年 稲葉 汐里

千束小6年 竹尾 礼

豊津小6年 林 昂佑

豊津小6年 日隈 朱里

豊津小6年 松岡 美樹

今元小6年 山口 涼一

ご応募・ご協力頂いた皆さん、ありがとうございました。

12月期歴史講座のご案内

【漢詩文講座】

12月5日(土) 9時30分～

【古文書講座】

12月12日(土) 10時00分～

【金曜古文書講座】

12月18日(金) 10時00分～

【古典かな講座】

12月19日(土) 9時30分～

【みやこ学講座】

12月19日(土) 13時30分～

《古文書解読コーナー》

① 海鳥

② 〈ヒント〉みちたりる

③ 〆程

④ 〈ヒント〉手数がかららない

⑤ 環

⑥ 〈ヒント〉ひととおり目を通す

⑦ 園

⑧ 〈ヒント〉しっかりとっていること

⑨ 公掛

⑩ 〈ヒント〉こころの持ち方

◎ 答え

(反対向きに見てください)

- ① 環
- ② 〆程
- ③ 海鳥
- ④ 園
- ⑤ 公掛
- ⑥ 手
- ⑦ 足
- ⑧ 目
- ⑨ 心
- ⑩ 軽

みやこの歴史発見伝 33

今年の「地下発」メッセージ

— 2009年の発掘調査成果を振り返る —

今年も新発見！の考古学会

11月下旬、奈良県から衝撃的なニュースが届きました。

「卑弥呼の館発見か！」とのタイトルで、同県桜井市にある纏向遺跡から規格性のある巨大建物跡が見つかり、これが卑弥呼の宮殿の一部である可能性があるとの報です。邪馬台国論争に王手をかける発見？との見方もあって今後の動向が注目されますが、わがみやこ町でも、衝撃的内容か否かはともかく、町の古代史を明らかにする新発見がありました。

新年を前に、今年のみやこ町の遺跡からの新発見Ⅱ地下発メッセージをご紹介します。

今年のみやこ町の発掘調査 開発によってやむなく消滅する遺跡は発掘調査によって記録保存することが定められている文化財保護法に基づき、みやこ町では博物館に事務所をおく文化係が主体となって年間数件の発掘調査を行っています。今年も東九州自動車道など大型開発が本格化したことに伴い5件の

調査が行われ、主だったものとして以下の遺跡から新発見の成果が得られています。

● 下原七反田遺跡（豊津地区）



▲発見された官道跡(画面奥へと延びる凹部分)

ゆるやかな丘陵上に広がる下原区内の水田下から見つかり、奈良時代（8世紀）の集落・交通遺跡がその中心です。

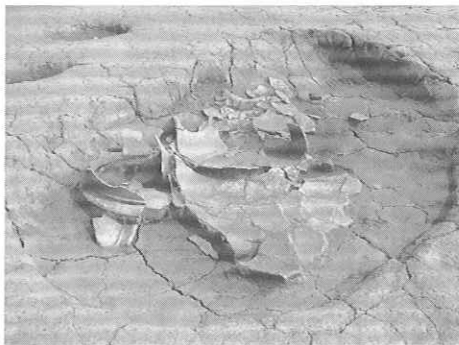
調査は東九州道の建設に先立つ記録保存のために行われ、今年約10,000㎡が福岡県教育委員会によって調査されました。

注目される成果として古代官道跡の発見があり、町内での発見は本格的な遺構としては初め

てのものとなりました。官道は8世紀頃に整備された

古代の高規格道路で、中央と地方を最速で結ぶため、ルートや構造が特別仕様（直線志向・特殊工法「頑丈・丁寧な地固め」の採用・砂利舗装など）となっていることが特徴です。これまで同様の遺跡の発見は小規模・断片的なものにとどまっていたましたが今回は幅9m、長さ40m前後と良好な状態で発見されました。発見場所の特性からみて大宰府から宇佐神宮や豊後国府（大分県）を目指す「西海道豊前路」とよばれた道であったと考えられます。

● 国作八反田遺跡（豊津地区）



▲野焼きの穴。これを土のドームで覆って焼いた

被川左岸の平野に広がる国作区内の水田下から見つかり、弥生時代おわり（2世紀）頃の集落遺跡がその中心です。

同じく東九州道の建設に先立つ記録保存調査として行われ、

約10,000㎡を現在（12月時点）も調査中です。

注目される成果としてはすぐ近くにある徳永川の上遺跡（弥生時代末の墓地。付近を治めた王の墓と考えられている）に大いに関わりを持つ遺跡と考えられることで、川の上遺跡に眠る王を支えた臣下やムラ人の集落とみることでもできそうです。

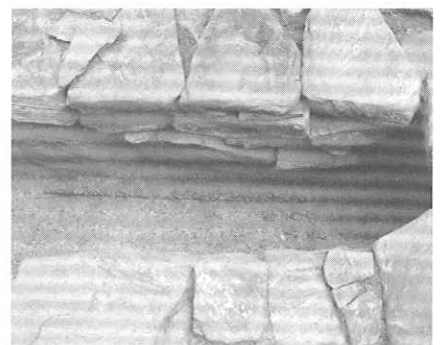
ユニークなものとしては土器の「野焼き」をした跡とみられる穴が見つかったことがあげられます。このことは穴の底に灰や炭とともに平たい石が置かれ、その上に伏せたり横にした状態でほぼ形を残した土器が見つかったことで分かったのですが、せっかく焼いた土器を取り出さなかったのは何かあったのか？という謎も残しています。

● 大久保向原遺跡（勝山地区）



▲古墳群中の1基（6号墳）の石室外観

鉄高坊山から大久保区内へと伸びる細長い尾根の上に築かれ



▲6号墳石室内部の「太刀」出土の様子

た墳墓遺跡で、古墳時代なかば（5世紀）頃の円墳群がその中心です。調査は土砂採取事業に先立つ記録保存のために行われ12基の古墳が確認されました。

注目される成果として、古墳群のうちの4基から鉄製武器（鉾・刀・鎌・太刀）が、うち1基から櫛4点が出土したことがあげられます。武器については司祭者から武人へと変貌する当時の支配者像がうかがえること、櫛については、「古事記」に記される魔除けの呪具となる櫛の役割を如実に語る資料として注目されます。

以上がその成果の一部ですが、卑弥呼の館発見！ほどの注目度はないにしても、まだまだ謎の多いみやこ町の古代史がまた一つ明らかになったことの意味は小さくありません。地道な成果は何れ大輪の花を咲かすはずですから。 （木村 達美）